

霞

— 2022年度 博物館だより —

土浦市立博物館
令和5年1月5日発行(番外第7号)

土浦市立博物館は、大規模改修工事のため、令和4年7月5日(火)から令和6年1月上旬(予定)まで休館いたします。博物館だより「霞(かすみ) 番外」では、毎月、工事の進捗状況や館外で開催する展覧会、講座の情報をお伝えします。休館中の「おうちミュージアム」(解説動画)では、土浦市内の史跡や文化財などの見どころを紹介いたします。

博物館は休館中! (7)「2022年度館長講座を開催しました」

「霞」番外第4号にてお知らせしました、館長講座「館長が語る歴史物語」(全3回)を土浦市生涯学習館にて開催しました。本講座の音声を収録したDVDを貸し出していますので、ご希望の際は博物館までお電話でお問い合わせください。

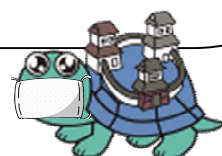


館長講座第2回の様子(土浦市生涯学習館にて)

各回のテーマは、以下のとおりでした。

- ・第1回 12月7日(水)
「鎌倉殿」と常陸武家(八田氏・小田氏・真壁氏)
- ・第2回 12月14日(水)
常陸武家の拠点(「堀之内」体制)
- ・第3回 12月21日(水)
南北朝内乱期の常陸武家

博物館マスコット
亀城かめくん



◆博物館からのお知らせ◆

●「戦争の記憶マップ」写真展が開催されています

土浦市域とその周辺に残る海軍航空隊関係施設や史跡などを紹介した「戦争の記憶マップ」に掲載している写真23点が展示されています。

会場：イオンモール土浦(土浦市上高津367)

3階 未来屋書店土浦店内カフェ・ド・クリエ内

会期：令和4年11月18日(金)～令和5年1月15日(日)

10時～21時 期間中無休 ※見学は無料です。

主催：株式会社未来屋書店 協力：土浦市文化財愛護の会写真部会 土浦市立博物館



「戦争の記憶マップ」は、土浦城東櫓にて販売しています(価格150円)。



左のQRコードから解説動画のウェブページへアクセスできます。

霞(かすみ) 2022年度 博物館だより(番外第7号)

編集・発行 土浦市立博物館 茨城県土浦市中央1-15-18
TEL 029-824-2928 FAX 029-824-9423
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir000378.html>

博物館だより「霞」番外第8号の刊行は、令和5年2月2日(木)を予定しています。

※「霞」バックナンバーは、当館ホームページからもご覧になれます。(カラー版)

2023年1月 おうちもミュージアム解説

川口川閘門跡

—指定文化財になった鉄扉と排水ポンプ—

前回の「霞」(番外第6号)では、旧水戸街道と川口川の結節点にあたる位置に、かつては赤煉瓦で造られた桜橋が見られたことをご紹介しました。現在、川口川は暗渠となっていますが、地下の水路はモール505から常磐線の線路下を通り、港橋の位置で霞ヶ浦へ流入しています。このルート途中、線路下には、今でも赤煉瓦造りの護岸跡を見ることができます(写真1)。ここは川口川閘門があった場所でした。

写真2は、大正10(1921)年に川口川河口付近を撮影したもので、線路付近に煉瓦造りの護岸が見えます。線路右手の湾曲した部分が、明治39(1906)年に完成した閘門です。閘門は、船の通行のために普段は門扉を開けておき、霞ヶ浦の逆水が入るときに閉め、浸水から町を守る仕組みでした。逆水とは、利根川の洪水が霞ヶ浦へ流れ込み、その水が川に逆流して水位が上がることをいいます。土浦は、江戸時代から戦前にかけて洪水が頻発しましたが、その原因には、霞ヶ浦からの逆水と桜川の氾濫がありました。閘門と明治28年に土浦・友部間に開通した日本鉄道土浦線(現常磐線)敷設のための「土盛り」は、この逆水への備えでした。

写真3は、昭和16(1941)年7月の洪水の際、ポンプで霞ヶ浦へ水を排出している所です。実際のところ、逆水対策には、扉を閉めるだけではなく、市街地に溜まった水を排水するための設備も必要でした。しかし設備が十分に整わないまま、昭和10年・13年も町は大洪水にみまわれています。昭和16年、土浦市は国からポンプを借用し、その後購入して、閘門脇へ排水ポンプ場を設置しました。

写真4は、令和2(2020)年に「旧川口川閘門鉄扉及びポンプ」として市指定文化財となった鉄扉と排水ポンプです。鉄扉は2枚のうち1枚の上半分で、排水ポンプは優れた機能性により量産された「みのくち式渦巻ポンプ」(昭和16年8月製、株式会社荏原製作所製造)です。高架道路建設に伴い、昭和61年に現在地へ移設されました。

現在では、総合的な洪水対策が進み、洪水の発生は少なくなりました。今回ご紹介した煉瓦造りの護岸跡、鉄扉と排水ポンプは、湖川とともにある土浦の町で、人々が洪水と闘ってきた歴史の証といえるでしょう。(野田礼子)



写真1 線路下の赤煉瓦造りの護岸跡(現在)



写真2 川口川河口付近(大正10年)



写真3 ポンプでの排水(昭和16年)

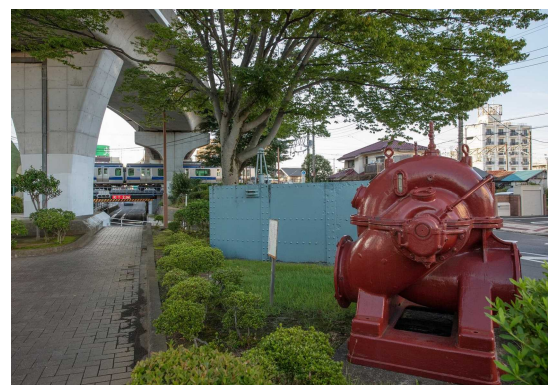


写真4 みのくち式渦巻ポンプと鉄扉(奥)(現在)